Top Interview
トップに聞く！

福岡銀行

患者にも職員にとっても「ハッピー」な新病院が完成。地域に貢献する病院に。

医療法人真鶴会 小倉第一病院

理事長・院長
中村 秀敏 氏

取引店／福岡銀行 北九州営業部

■法人概要

創業:1972年／**所在地**:北九州市小倉北区／**従業員**:194名（パート含む）／**診療科目**:腎臓内科、人工透析内科、糖尿病内科、内分泌内科、リウマチ科、形成外科、皮膚科／**関連施設・事業所**:サービス付き高齢者向け住宅「はぴりば」

ホームページはこちらからどうぞ!

2021年11月に開院した新病院（左から中村理事長、五島頭取）

九州初の夜間人工透析ができる透析専門診療所として開業

当院は、1972年に父・中村定敏（さだとし）が夜間に人工透析が可能な透析専門有床診療所「北九州クリニック（19床）」を開設したのが始まりです。それまで父は、地域の基幹病院で黎明期の透析医療の立ち上げに関わっていましたが、当時の透析は1回に約8時間もかかり、患者さんの生活そのものが成り立たない状況でした。そこで、「働いている人が夜間に透析を受けられるようにしたい」という思いから、「透析患者の完全社会復帰」という設立理念を掲げてこのクリニックを立ち上げました。

1985年に「小倉第一病院」に改組し、病床数を80床に増床しました。競合も少なかっただけに、透析患者さんの登録数は順調に伸び続け、最大時350人ほどになっていました。しかし、徐々に地域の他の医療機関でも透析に力を入れ始めたこともあり、2017年には270人にまで減ってしまったのです。

そこで2018年から、私自身が3つの大きな病院の外来で月に4回、非常勤の腎臓内科医として勤務し、透析が必要な場合には、当院を紹介するようにしています。実際に患者数もV字回復し、多忙な中でも今も続けています。

2021年11月、新病院スタート！駐車場から直結、広い透析室が実現

その中で着手したのが、新病院計画です。旧病院は、増改築を繰り返し、使い勝手も悪く、患者さんにも職員にも不便を掛けていました。新病院を建設することは、患者さんの増加のみならず、職員にとっても働きやすい環境になり、職員確保にもつながると考えていました。

新病院の移転先を探していたところ、東芝の北九州工場跡地であった現在の場所の情報提供をいただきました。売買契約までに5年ほどかかりましたが、福岡銀行をはじめとした関係機関のご尽力により無事に土地を取得することができました。

新病院の設計に関して、私は三つの要望を建築事務所に伝えました。一つ目は、駐車場と直結する大型スーパーマーケットをヒントに、「雨に濡れずに透析室へスムーズな動線が確保できる駐車場にすること」。二つ目は、透析の方が週3日、年間にすると156日も通院されるわけですから、「〝第2の住まい〟と言えるような病院らしくない内装にすること」。そして三つ目は、「職員が交流できるスペースをつくること」でした。

2021年11月に開院した新病院は、立体駐車場から渡り廊下で2階の透析フロアに直接

5

3

1

6

4

2

入れるようになっています。入院許可病床数は80床のままですが、外来用の透析ベッドは110床から125床に増床。外来透析室は幅約75m、チェアタイプの透析ベッドは半個室として一段下がったところに設け、大きな窓から患者さんが外の景色を眺められる造りになっています。現在の透析患者数は330人までに回復、さらなる患者さんの獲得を目指していきます。

職員が心地よいスペースを確保 働きやすい環境づくり

職員が働きやすい環境をつくることも、新病院の重要なテーマです。旧病院にも設けていた「メディカル・インフォメーション・プラザ（通称MIP（ミップ））」という職員交流のためのスペースを、新病院では1階のバックヤードエリアに広く設けました。ここには医局、幹部スペース、広報室、会議室、そして職員食堂に隣接するカフェスペースがあり、医局秘書を兼ねたMIPコンシェルジュの受付カウンターが入り口すぐ横にあります。幹部スペースはフリーアドレスで仕事ができるデスクとしているため、お互いが情報交換しやすく、職員からの相談も気軽にできる環境になっています。

院内には職員専用のフィットネスジムを設置し、職員の健康を積極的にサポートしています。仕事終わりにすぐ利用できる利便性の高さから利用者も多く、職員同士の交流の場としても機能しています。

また、周囲に飲食店が少ないことから、職員の駐車場スペースに週3回ほどキッチンカーが出店。カフェスペースの掲示板にメニューを貼り、職員たちが事前予約をできるようにしています。新病院ができた2021年11月はコロナ禍真っ最中で、キッチンカーの業者の方も売上げが落ち込み困っていたところでした。近隣の住民の方にも開放していますので、病院を知ってもらえる機会にもなっています。

病院としては非常に画期的なこれらの福利厚生の充実は、職員の定着や獲得につながっていると実感しています。実際に2022年の

中村理事長

11

9

7

10

8

1.ギャラリーでの対談風景／2.駐車場と透析室を渡り廊下でつなぐことで、患者さんのスムーズな動線を確保／3.明るく開放的な透析室／4.5.サービス付き高齢者向け住宅「はぴりば」の居室とリビング／6.7.職員交流スペース「MIP」／8.マスコットキャラクター「ハッピー」のオリジナルグッズ／9.中村定敏名誉理事長の診察風景／10.入職時研修の様子／11.メッセージ

新病院正面玄関前。前列左2人目から中村理事長、五島頭取、上村北九州営業部長（福岡銀行）

採用職員20名は1人も離職者がいません。有給休暇取得率も職員全体で100%となっています。2024年4月から「医師の働き方改革」が施行されますが、当院の医師はほぼ定時で業務を終えています。30代、40代の中堅医師も常勤医として勤務してくれており、様々な改革が職員確保につながってきていると思います。

教育体制を充実
愛着を持って働ける病院に

職員の確保のためには、教育体制の充実も重要だと考えています。病院では、一般企業のような新人の研修期間を設ける余裕はなく、新人は先輩について仕事を覚えていくことが一般的です。その中で、当院では約10日間の新人研修期間を設けて、現場に入る前に基礎的な知識がしっかりと学べる独自のプログラムの下で丁寧に指導を行っています。

教育体制は、赴任時からの私の取り組むべき課題と思っており、赴任した2004年には早速、医療安全管理、職員マナー向上のためのeラーニングの本格運用を開始しました。さらには、コンサルタントを導入して採用プロジェクトチームを発足させ、学生さんを対象とした病院見学会の開催や採用専用のSNSを開設

して情報発信を行うなど、職員獲得のための様々な取り組みを行っています。また全国的な看護師、介護職員不足から、インドネシア人のスタッフを採用しています。非常に真面目で優秀、さらなる採用に向けて動いています。

また、この規模の病院では珍しく広報室を設けていることも強みになっています。セラピー犬として実際に活躍していたゴールデンレトリバーをモチーフに、職員がイラストを手掛けた当院のオリジナルキャラクター「ハッピー」の多種多様なオリジナルグッズも展開しています。患者さんにも愛着を持ってもらえますし、宣伝効果も高いものになっています。地元メディアが北九州市制60周年を記念して開催した「推しキャラ総選挙」では、おかげさまで1位を獲得。その他、広報誌制作や動画配信など、広報室は病院の周知に欠かせない存在になっています。

一般診療や市民公開講座など地域に貢献できる病院へ

新病院では地域への貢献として、透析以外にも患者さんを受け入れられるよう一般診療の強化も進めています。2015年には形成外科、2021年には皮膚科に医師が常勤していますが、どちらも一般診療を受け入れており、若い患者さんの外来受診が増えてきています。さらには、広報室が主導して市民公開講座もスタート。この地域の皆さんへ認知してもらえる病院になっていけたらと思っています。

新病院の移転地には当院のほか、特別支援学校や障がい者就労支援施設、保育園の開設が予定されています。将来的には障がい者就労支援施設からの雇用も行い、障がい者福祉分野でも地域に貢献できればと思います。

現在、新病院の5階は、サービス付き高齢者向け住宅になっています。ある程度自立された方を対象にしていますが、今後は、隣接する場所に住宅型有料老人ホームの建設も予定しています。実はこの地域にはこのような施設が少なく、施設からの通院となる高齢の患者さんの場合、別の地域に移ってしまうため、この病院を離れざるを得ないのです。そこで、隣接の土地に住宅型有料老人ホームを建設し、透析患者さんの通院困難を解消するとともにトータルで医療を提供できる環境を整えていきたいと思います。

おかげさまで、当院は2022年12月で50周年を迎えました。待っていれば患者さんが来るという時代から、病院も経営的な視点が必要な時代になってきています。時代のニーズ、地域のニーズを的確に捉えながら、生き残るための戦略を今後もしっかりと考えていきたいと思います。

■ インタビューを終えて

福岡銀行　取締役頭取　**五島 久**

九州初となる夜間人工透析が可能な透析専門診療所としてスタートした当院は地域にはなくてはならない存在で、現在330人を超える透析患者さまが通院されています。

2021年に建設された新病院は、患者さまの「第2の住まい」にしたいという中村秀敏理事長の強い想いが結実したものです。自然光を多く取り入れた各施設は病院であることを忘れてしまいます。職員の皆さんのスペースも充実していて、「患者さまのために職員が働きやすい環境を」という理事長の声に大きく頷きました。地域医療を支える「ハッピーな」存在として、更なる飛躍を遂げられるものと確信しています。

Top Interview

トップに聞く！

熊本銀行

新旅客ターミナルビルの誕生で活気。地域との共生と熊本の経済発展に大きく貢献するゲートウェイへ。

熊本国際空港株式会社

代表取締役社長
山川 秀明 氏

取引店／熊本銀行 本店営業部

■会社概要

設立:2019年／**所在地**:熊本県上益城郡益城町／**資本金**:64億4,000万円／**従業員**:112名（2023年7月現在）／**事業内容**:阿蘇くまもと空港の運営、航空機運航に伴う障害防止・損失補償、空港施設建設・管理など

会社ホームページはこちらからどうぞ!

空港前にて（左から山川社長、野村頭取）

コロナ禍が立ちはだかるなか
民間委託による再出発

阿蘇くまもと空港の航空管制を除く運営業務を担う熊本国際空港株式会社の設立は2019年4月。熊本地震によって被災した空港の旅客ターミナルビル建て替えを前提に、運営が民間委託されることとなり、三井不動産を代表とする企業グループが運営権者となって当社が設立されたのが始まりです。

空港全体の運営を実際に開始したのは2020年4月からですが、折しも世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス禍が始まった頃で、当社の船出はとても厳しいものでした。民間委託前の2018年度旅客数が過去最多の約346万人であったのに対し、国際線の運休を余儀なくされた2020年度は約84万人にまで落ち込むという状況でした。

そのような状況下、リモートによる活動を取り入れながら路線誘致などにも注力しつつ、旧国内線ターミナルビルの解体に着手。2021年1月に着工した新旅客ターミナルビルは約2年の工事期間を経て、本年3月に開業しました。そして、5月には新型コロナウイルスが感染症法上、「5類」の位置付けとなったこともあり、旅客数は国内線、国際線ともに回復傾向にある状況です。コロナ禍前の2019年と比較しても、5月は96・3%、6月は91・5%、7月は85・3%、8月は88・3%といった具合に、旅客数が戻ってきています。

また、今年9月には台北への定期便就航が実現し、台湾の半導体製造大手であるTSMCの熊本進出と相まって、空港利用者数のさらなる伸びが大いに期待されるところです。

豊富な知見と経験、多様な価値観を強みとするダイバーシティ集団

コロナ禍に阻まれるなか、当社がここに到るまでのさまざまな困難を乗り越えてこられた大きな理由は、組織そのものが幅広い知識と経験を有する人材から成る集団であったことです。

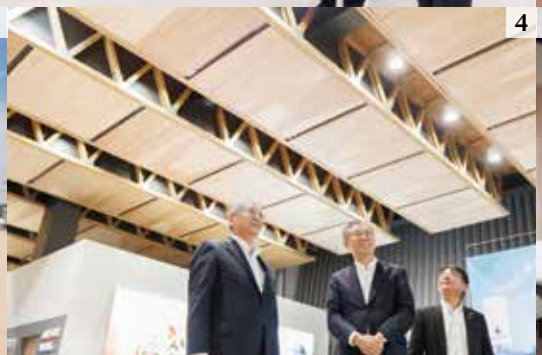
三井不動産を筆頭に、九州電力、九州産交ホールディングスなどの11社と熊本県を株主とする当社には、各企業の知見や専門性を持ち寄って事業を推進していける企業風土があります。社員は、株主会社から出向している者、以前より阿蘇くまもと空港運営に携わってきた者、他業界で経験を積んで転身した者、専門知識をもっている国のアドバイザーなどから構成

5

3

1

6


4

2

されており、いわば、豊富な知見と経験、多様な価値観を強みとするダイバーシティ集団といえます。

空港運営において、これまでになかった民間ならではの発想力、実行力、連携力を発揮した結果、国内線と国際線共用の搭乗待合エリア、羽田空港などの国内大規模空港に比肩するほど充実した免税店のブランドラインナップ、海外ネットワークを活かしたエアポートセールスなどが実現しています。

変わったところでは、運用時間外を利用しての、滑走路をコースに用いたマラソンイベントも実施。職員や関係機関のみならず、地域住民や地元の大学生も巻き込んで、空港の存在感と魅力を感じていただくきっかけになっています。

山川社長

航空会社に選ばれる空港、地域にひらかれた場の両立を目指す

コロナの5類への移行、政府水際対策の緩和から撤廃、そして新旅客ターミナルビルの開業というタイミングを捉えて、当社ではとくに以下の三点に注力しています。

まずは、路線の誘致。つまり、当空港を就航先として選ぶ航空会社を増やす活動です。

国際線に関しては、すでにソウル線が毎日運航しています。また、9月から運航を開始した台北線は、スターラックス航空とチャイナエアラインのダブルトラック運航によって利便性は高まりつつあります。運休路線の復便や、これまで直行便のなかった中国大陸、東南アジア方面との新規路線開拓に向けて、誘致活動を加速させていきたいと考えています。

国内線についても、札幌や仙台などと路線をつなぐ活動に注力し、現在最も北の就航地である成田空港以北の都市との新規就航を目指していきます。

また、阿蘇くまもと空港が「九州の中心に位置する」という地理的優位性を訴求しつつ、熊本が誇る自然、歴史、食といったさまざまなコンテンツの発信にも力を入れていきたいところ

1.対談風景／2.事務所には阿蘇くまもと空港で運航している飛行機の模型が展示されている／3.空港内を見学／4.3階の天板は小国杉が使用されている／5.展望デッキに向かう通路からは搭乗待合エリアを眺めることができる／6.滑走路を一望できる展望デッキで記念撮影／7.15分単位で利用できるワークスペース／8.お土産購入エリア（搭乗待合エリア内）／9.搭乗待合エリアの休憩スペース／10.広々としたスペースでくつろげるラウンジ／11.企業メッセージ

事務所前にて。前列左2人目から山川社長、野村頭取、田口本店営業部長（熊本銀行）

です。これについては、地域の皆さまのご協力も仰ぎ、一体となって路線誘致につなげていけたらと思います。

二つめは、「シンプルで利用しやすい、国内線・国際線一体型のターミナルビル」の実現。阿蘇くまもと空港には、早めに着いて搭乗待合エリアに入ってしまえば、保安検査の時間を心配しながら並ぶこともなく、ゆったりと食事や買い物を楽しめるという利点があります。そして、そのメリットは徐々にお客さまに浸透してきており、早めに空港を訪れる方が増えています。テナントと手を取り合うなかで空港の魅力をさらに高め、お客さまの利便性向上と定時性の確保に努めていきます。

三つめは、商業ゾーンの充実化。２０２４年秋をめどに、地域にひらかれた広場と商業ゾーンを同時にオープンさせる予定でしたが、「送迎者も利用できる店舗を早くオープンさせてほしい」とのご要望を多くいただき、商業ゾーンの店舗は前倒しでの順次オープンを視野に計画を進めています。

また、もともとビジネス需要が高い空港でしたので、新旅客ターミナルビルには、テレワークスペースを設置。こちらも設備の拡充を推進していきたいと考えています。

安全・安心を第一として、訪れる人も働く人も心から笑顔になれる場に

阿蘇くまもと空港は、国内外の人や物資を送り出し、受け入れている、社会経済にとって欠かせない役割を果たしているインフラです。そして、DXが進展した結果、かえってリアルなヒトとモノの動きは、より価値のあるものになっている、と私は感じています。また、空港がネットワークを伸展させて成長することは、地域のみならず、国の経済発展にもつながるので、インフラを安全に運営する私たちの役割はとても重要であり、それだけの責任を問われるものだと認識しています。

ですから、搭乗する方や地域の方々、空港で働く人のいずれにとっても、「安全・安心」を提供する施設であることが第一だと考えます。そのうえで、当社がビジョンとして掲げる「訪れる人も、働く人も、笑顔になれる、世界でいちばん居心地のいい空港」を目指します。

そのような場の実現のために、私自身が心がけているのは、「明るく楽しく」をモットーに、働く人たちが気持ちよく働けて、人としても成長していける環境を整えていくこと。社員一人ひとりの思いに耳を傾けながら、皆がお互いを理解し合い支え合えるような取り組みに力を入れているところです。その結果として、社内が一体となり、会社の成長、空港の成長を継続的に促していけたらと思います。

大勢の夢を育み、未来をひらく

関わるすべての人に笑顔をもたらすために発展する阿蘇くまもと空港は、災害時には広域防災拠点となる重要な役割も担っています。よりいっそう大勢の人々に「使いやすくて良い空港」だと認識していただくために、まずは熊本の経済発展に寄与できる、選ばれる空港を目指していきます。

路線の拡充、定時性と利便性の追求による空港の魅力開拓の先には、「飛行機には乗らないけど遊びに来た」「次はここから飛行機に乗ってみたい、旅行に出かけたい」という大勢の夢があるはずです。

また、熊本県が目指している空港アクセス鉄道の開通が、早ければ2034年度末に予定されています。空港の利便性が高まって、産業の集積が図られることで、空港を中核とした「街」の創出を目指し運営を続けてまいります。

■ インタビューを終えて

熊本銀行　取締役頭取　**野村 俊巳**

2020年より阿蘇くまもと空港の運営に携わっておられる熊本国際空港株式会社は、安全と安心の提供を第一として、地震に強く、非常時にも電気・水道・通信などのライフラインを確保できる造りの新たな旅客ターミナルビルを完成させ、今年3月に供用を開始されました。

また、利用者の利便性に配慮し、国内線と国際線のターミナル機能を一体化し、待ち時間を短縮するスマートレーンなどの最新機器も導入されています。空港周辺の賑わい創出、交流人口の拡大を通じて、ますます熊本の発展に貢献されるのを期待しています。

Top Interview
トップに聞く!

十八親和銀行

鰻一筋に150年。博多で生まれ、育った信頼と味をこれからも守り続けていく。

株式会社 吉塚うなぎ屋

会長
徳安 憲一 氏

代表取締役
徳安 さやか 氏

取引店／十八親和銀行 福岡営業部グループ

■会社概要

設立:1873年／**所在地:**福岡市博多区／**資本金:**1,000万円／**従業員:**65名（2023年6月現在）／**事業内容:**鰻料理専門店

会社ホームページはこちらからどうぞ!

店舗前（左から徳安社長、徳安会長、山川頭取、徳安女将）

繁盛している裏にあった
歴代当主が歩んだ苦難の歴史

創業は1873年、おかげさまで、2023年でちょうど150年を迎えます。創業者である徳安新助は、代々、今の福岡市博多区吉塚で鍛冶屋を営んでいました。その当時、吉塚には鍛冶屋が多く、現在、地元の千代森神社（福岡市博多区千代）で毎年11月8日に鞴祭（ふいご）が開催されているのも、その名残と言われています。

その鍛冶屋が、なぜ鰻（うなぎ）屋になったのか逸話が残っています。新助がある時、行き倒れの人を助けたところ、その人が鰻職人だったそうで、そのお礼にと鰻の調理法を伝授してくれました。吉塚うなぎ屋独自の「こなし」はこの時に学んだもので、関東風でも関西風でもないことから、この鰻職人がどこから来た人だったのか、いまだに謎に包まれています。ちょうど明治になり、武家制度が廃止され、廃刀令とともに鍛冶の仕事が廃れてきたこともあり、心機一転、鍛冶屋から鰻料理専門店「吉塚うなぎ屋」へと生まれ変わったのです。

明治時代でも鰻は、非常に高級な食材でした。ただ、今と違うのは来店するとお客さまはまずゆっくりと湯につかり、その間に那珂川に設置していた筏（いかだ）に鰻を取りに行き、お客さまはお酒を飲みながら、鰻が焼き上がるのを待っているという風情のあるものでした。その筏があったことから、大正時代には今の福岡市博多区中洲に支店を出しています。

その中洲支店は、1945年6月の福岡大空襲で焼失したのですが、戦後を迎えると吉塚本店を整理して、中洲5丁目で再開しました。その頃店を仕切っていた3代目は「鰻焼きの名人」と言われるほどの腕を持っており、お店はいつも大繁盛していました。また、東京にも出店しているほどでした。ところが、名人と誉れが高かった3代目は財布の紐が緩く、店は繁盛しているのに資金繰りに困るという状況に陥っていったのです。

その後4代目に皺寄せが来て、借金返済に奔走しました。堅実な経営や金融機関の手助けなどもあり、徐々に経営改善をしていったのです。

5

3

1

6

4

2

若くして継いだ5代目 念願であった新店舗を完成

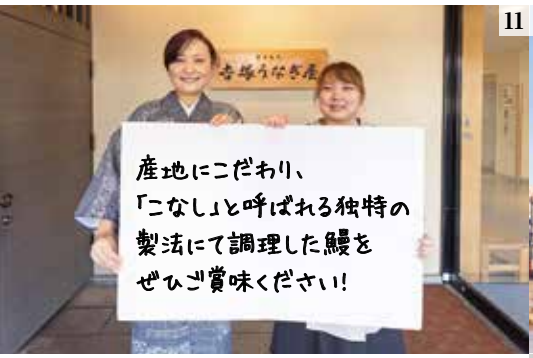
しかし、その心労もあったのか4代目が心筋梗塞で倒れ、5代目に当たる現会長の徳安憲一は、35歳という若さで店を継ぐことになったのです。5代目は、4代目が入院している病院に毎日報告にいきながら、店の味を守り続けました。しかし、4代目が亡くなると、お客さまの中には「先代から味が変わった」と言われる方もいらっしゃいました。実際には亡くなる前から5代目が手がけていたので、味は同じはず。そこで、5代目はあえて新しいことはせず、伝統を守り続けようと決意したのです。

徳安憲一会長

後に経営も安定し、先代からの念願であった借地だった店の土地を買い取り、2009年に、現在の店舗を新築しました。以前の店舗は、階段が急でお客さまに不便をお掛けしていたのですが、新しい4階建ての店舗ではエレベーターを設置し、車いすのお客さまにも安心してご来店いただいています。店内は2階がカウンターとテーブル席、3階が座敷や掘りごたつ席となっており、博多川を望む建物の入り口は、木々が茂り、博多塀が情緒を醸し出しています。博多に生まれて、博多で育ってきた当店らしい構えが出来上がったのではないかと思います。

焼きながら、もみ、たたく「こなし」と呼ばれる独特の製法

当店の鰻は「こなし」と呼ばれる調理法が特徴です。腹割り・串打ちなどは関西風と言えますが、焼きながら、もみ・たたく「こなし」を行うことで、鰻の味を最大限に引き出す調理法は、全国的にも珍しいのではないかと思います。この「こなし」によって、鰻からにじみ出た



11

9

7

10

8

1.対談風景／2.産地モニター案内／3.4.5.厨房案内／6.厳選された国産鰻／7.当社自慢の鰻重／8.試食風景／9.店舗外観／10.加工場風景／11.企業メッセージ

前列左4人目から徳安さやか社長、徳安憲一会長、山川頭取、森田支店長（十八親和銀行）

脂で表面がムラなく焼き上がり、鰻そのものがふっくらと、皮がパリッと仕上がるのです。

蒲焼きの決め手となる「秘伝のタレ」は、継ぎ足しながら受け継がれています。ほんのりと甘めの味わいで、ふっくらと香ばしくあがった鰻のうま味をさらに引き立ててくれます。

さらに、当店の鰻は国産のみ取り扱うということが特徴となっています。外国産のものはどこでどのように育ったのか分からず、自分たちが見たこともない場所で育った鰻をお客さまにお出しするわけにはいきません。鰻の産地で有名な静岡、宮崎、鹿児島に出向いて、生産者と直接顔を合わせ、実際の飼育の様子を見て信頼できるところのものだけを厳選して仕入れています。その生産者の方は、当店1階モニターでもご紹介していますので、ぜひご覧いただければと思います。

常連の方への感謝を忘れずに より愛され、信頼される店に

2022年2月に7代目として、代表取締役に就任しました。以前は海外からのお客さまや

観光客が1日中途切れることなく来店され、従業員が休む暇がないほどだったところに、新型コロナウイルスの感染拡大で一気にお客さまが減ってしまいました。そんな中で、私たちを支えてくださったのが、地元常連のお客さまです。コロナが落ち着いて、またにぎわいは戻りつつありますが、地元常連のお客さまへの感謝を忘れることがあってはならないと、改めて感じました。

2023年は創業150周年にあたり、何か記念になるようなことができればと考えています。また、今後は効率化とお客さまをお待たせすることがないよう予約システムなども導入しようと計画していますが、対面で、お客さまの顔を見て接することの大切さも決して忘れてはならないと思っています。

徳安さやか社長

また、毎年「丑（うし）の日」を発案したと言われている平賀源内（ひらがげんない）の命日にちなみ、12月18日を「吉塚うなぎ屋こどもの日」と定め、お子さま連れのお客さまに限り店内メニューを半額にするサービスを行っています。これは、普段は鰻店になじみのないお客さまにご来店いただいくと同時に、将来、この店のファンになってくださるであろうお子さまに、ぜひ当店の鰻を味わっていただきたいとの思いで続けています。鰻が苦手というお子さまも、当店に来ると「美味しい」と食べてくださることが多く、嬉しく思います。

また、鰻職人の確保も、店を守り続けていくには欠かせません。若い世代は鰻になじみがないため、調理学校に出向き、実際に鰻をさばく様子を見てもらい、興味を持っていただくような取り組みも考えています。

150年が経ち、これから新しいことを始めるよりも、これまでやってきたことをより深く掘り下げ、より親しんでいただけるお店にしていきたいと思います。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行　取締役頭取　**山川 信彦**

当社は、「こなし」と呼ばれる独自の調理法や、永年受け継がれてきた「秘伝のタレ」により、150年に亘り国内外多くのお客様に愛され続けてこられました。

また、今までの伝統に加え、研究機関と共同して生簀の水質改善に取り組まれ、お米のブレンドも研究を重ねられるなど、素材に拘り、たゆまぬ努力を継続されていらっしゃいます。これまで培われた伝統の味を守り続け、今後もますます発展されることを期待しております。